

北海道を守り、育て、豊かにする

2022年11月10日

ビジョン（未来像、見通し、構想）

「北海道を守り、育て、豊かにする」をスローガンに、今の北海道の良いところは守り、伸ばし、壊されたところは修復、改善をしていきたいと思ひます。北海道の大地、そこに宿る動植物、そして人々が北海道の恵みから恩恵と喜びと豊かさを享受できる北海道にリフォームしたいと思ひます。



リフォームとは

この素晴らしい北海道を一つのホーム（家）に例えると、良く整っているところと明らかに手を加えた方が良いところ、交換した方が良いところもあるでしょう。具体的にどこが、と言うと皆さんのお住まいの地域、お仕事、自然環境、好き嫌いなどが多岐に分かれますので、「ここを直したい」と言うのはひとつひとつ検討する必要があります。道民の声に耳を傾けることが重要ないわれです。道民と言うオーナーの意向が達成されることがリフォーム全体の監督、調整者（知事）の使命です。

どんなリフォームをするの

環境を守る

- 自然破壊しない（風力発電開発、太陽光発電、核ゴミは拒否）
- 原発に依存しない北海道にする（泊原発、大間原発）
- 農業、酪農、林業、漁業の自然環境と健康に配慮した発展の模索
- 必要以上に土地の売却をしない（耕作地と水源の保全は重要）
- その他（道民の声をもとに検討）

暮らしを守る（順不同）

- 経済の確認（経済格差の構造,調査,是正、所得増大計画、雇用創出と確保）
- 道民へのサービス向上を目的とした公務員の境遇改善と人材の育成
- 健康対策（保健体制の点検と拡充、費用面での対応）
- コロナ対策1（医療者への支援拡大、医療体制見直し、拡充）
- コロナ対策2（ワクチンの調査、イベルメクチンの検討）
- 低額年金での生活が強いられている方々の生活と健康の見守り
- さまざまな障害と共に人生を生き抜いておられる方への支援
- 障害者施設、介護施設への支援体制の見直しと強化
- 介護支援（在宅介護、施設介護、介護士の待遇改善）
- 東日本大震災および福島原発事故関連の自主避難者への支援
- 冬季間の暖房対策（各市町村でその地に住む人々の環境改善）
- 除雪対策（北海道の安心生活に対応したしっかりとした予算を）
- その他（道民の声を基に検討）

育てる（未来を創る）

- 人々への啓発、啓蒙、教育を通して、自然を大切にする心、思いやる心
- 179市町村のコミュニティの保全と街の規模に合った繁栄を支える
- 子供たちへの教育の見直し（ルールではなく、個性と才能に重きを）
- 教育現場の改善（教師の方が国の施策重視ではなく、子供教育目線に）
- 公務員の皆様への感謝意識の向上と行政サービスを向上
- 農業（有機、無農薬、所得向上、人材育成と後継者支援、直接販売制度）
- 酪農（大規模経営と小規模経営の待遇や利益のバランスを調整）
- 林業（未来を見据えた道内木材、植樹、伐採、道内住宅への積極活用）
- 漁業（資源減に伴う支援、養殖の可能性調査拡充、新種漁獲の活用模索）
- 原発、風力、太陽光に代わるエネルギーの創出（人材、雇用対策含む）
- 北海道内の電子通貨の構築（交付金、支援金、還付の迅速化と経費節約）
- 北海道年間予算 3兆2200億円（令和4年）の歳出の再考、転換
- その他（道民の声を基に検討）

このようにリフォームは多方面にわたることが分かります。

リソース（資源・資産）は、まずは北海道に住むすべての皆様です。それは179市町村のすべての仲間、今日、お生まれになった赤ちゃんも仲間です。今、幼い子でも、小学生でも、将来は北海道を支えていく仲間です。

大切なのは自分の住む北海道は自分たちの意識と気持ちで守り、育て、豊かにするという志です。これは誰かから強制されたりするものではありません。さらには国や北海道などの行政に丸投げするものでもありません。自分たちがどうしたいのか、そのことをしっかり考えて気持ちと声を一つにしていることです。話し合いが必要でしょう、個性も違い、育った背景も違うのですから違いがあるのはむしろ自然なこと、知性と理知を用いてその違いをお互い理解することに努め、理解が生まれれば歩み寄りや、協力や、譲り合いも出来ると思います。人間性が向上します。尊重しあう理想の社会です。

今は、お金と権力が人々のそのような意識を無視し、潰しています。ですから抗議、デモ、叫び、訴訟が生まれます。お金と権力に依存せず、大自然とそこに住む人々に重きを置くリーダーがいれば、自由闊達な意見交換、話し合いの末の協力、協調が作られることでしょう。

これが「北海道を守り、育て、豊かにする」のコンセプトです。

